
第2次スーパー口ボット大戦Z 完結編 終盤編

Acewell

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第2次スーパー口ボット大戦Z 完結編 終盤編

【Zコード】

Z2559Y

【作者名】

Acewell

【あらすじ】

各種劇場版が参戦した時の事を考えてたら妄想沸いてきたので文章練習がてらに投稿してみます

EL-6 戦 キラ・ヤマトの場合 (前書き)

基本的にコマンドシーン毎です

ELS戦 キラ・ヤマトの場合

「くそっ」

キラは眼前に迫る大量のELSに対し、迎撃を躊躇していた。自分達の命を脅かす者とは例え殺す事になつても戦つと覚悟した。そう教えられた筈だつた。

だが、アムロ達や刹那。

ニュー・タイプにイノベイターが感じた事

（あいつらから邪氣は感じない。焦つているように感じる）
（本当に判らないんだ。だが、攻撃してはいけないと感じた）
（彼らは叫んでいるんです。内容はわかりませんが）

その言葉が脳裏に走り、放つて置けば自分達が死ぬと理解していくも引き金を引けなかつた。

「君たちは何が目的なんだ！」

だから叫ぶ。

初めは言葉が通じなかつたバジュラとも最終的には和解し共存できた。ならば、今回もできるかもしれない、と淡い望みを持つて。

しかし、そんな奇跡は何度も起つるわけがない。ELSはキラの横を突破してしまう。

「しまつた！」

だが、横から掃射された疑似粒子のビームが突破したELSを貫いた。

「何を躊躇しているのだ、ガンダム！」

ビームの先には、フラッギングの面影を残した蒼い機体、グラハム・エーカーの駆るブレイヴが弾幕を形成していた。

「生きるために戦え、といったのは君たちの筈だ！」

「例え矛盾を孕んだとしても存在し続ける、それが生きることだと

！」

「つー解っています…でも…」

「ならば戦え！」

「互いの意思が理解出来ないのならば、対話など成り立つ訳がない
まして、手段を確保する時間すら無いのだ、ならばー！」

ブレイヴは巡航形体に変形し先行していく。

「行動で示すのだ！」

「我々はその行動を許すことは出来ないのだと。だから武器を手に
取るのだと！」

「…わかりました！」

ストライクフリーダムはドラグーンを全て射出

「サバーーイヤみたいには無理だけビ…ー」

マルチロックオンを起動させ、迷い無くEJECTをロックオン

「ごめんね。」

「けどね、それでも守りたい世界があるからー。」

「いけええええ！」

戦場に新しい花が咲いた

キラは人の意思を感じ取れる訳ではない。

回りの状況をスーパー「コーディネーター」としての頭脳で解析し、そうであるが、と推測しているに過ぎない。

そこで血口飛沫してしまったからこそ彼は、回りから諭されなければ、変わることができない

E-S戦 カミーノ・ユタンの場合

「一体なんなんだよ……」

何かがおかしい。

そう感じつゝもビームライフルを撃つことを止める事はしない。

意思を感じる事が出来ない。

いや、感じるには感じてはいるのだが……

眼前に大量に広がっているE-Sから一つの巨大な意思しか感じる事が出来ない。

どんなに統率された集団で在つても、個々の意思の揺らぎは発生するものだ。

だがE-Sからそれを感じる事が出来ない。

揺らぎが無いわけでは無いのだが、その揺らぎでさえも完全に同時に発生しているようだ。

普通の人間ならば、その現象に相対しても戦闘に影響は出ないであろう。

だが、相手の意識を感じるとE-Sタイプにとつては、致命的であった。

意識に相違が発生しない。つまり、個体差を認識できないのだ。

E-Sタイプのアドバンテージ、意思の感知による第六感的な反応が出来ない。

この戦場では、E-Sタイプは、サイコリコ兵器を使用できる兵士、

それだけでしか無い。

「全ての人間を殺すのが総意って事なのかよ…」
許せる訳が無い。

「アムロ大尉はE.L.Sが焦つてていると言つていた」
「でも、命は力なんだ。どんな理由が在つたって、簡単に奪つてい
いものじゃない」

バイオセンサーがカミーノの意思を、
今も散つている兵士の意思を、
際限無く受け取り、Ζガンダムはオーラを纏う
「だから、そんな事をせるものかよ…」

ビームサーベルの刀身が果てしなく伸びていく

「貴様らはここに居ちゃ行けないんだ、だから、ここから…」
「居なくなれー！」

今は思いに任せてひたすら戦うだけ

ELS戦 カミーク・ユタノの場合（後書き）

「ユータイプ」ならELSIの生態に少し気づく事は出来る。
でも、分かり合つことは出来ない。
意思を伝えあえたとしても、ロボットーションの手段が完全に違うのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2559y/>

第2次スーパーロボット大戦Ζ完結編 終盤編

2011年11月11日05時16分発行